

# 2015.4.25 ネパール大地震

## 「現地にいる日本人」たちが素早く支援を開始していました



### ネパール連邦民主共和国 (2008年に王制廃止)



▲5月3日、クムジュンの隣のクンデ村の状況(ブログより)  
▼5月1日、支援活動中の日本人青年に出会う(Twitterより)

**野口健** (@kenkouji2012)

クムジュン村に滞在している多くの登山隊と会う。多くが登山を断念し降りてきた登山隊だ。みな、準備し、多額の費用もつぎ込んでやってきた人たちばかり。日本の青年にもあったが、彼は会社を辞めてヒマラヤにやってきた。その彼も登山続行を諦めシェルパ達と一緒に瓦礫の撤去活動を行っている。

446 likes, 170 retweets

※シェルパ=ヒマラヤで登山隊に同行する現地人ガイドの呼称

ネパールのカトマンズ北西で4月25日午前11時56分(日本時間同午後3時11分)頃、マグニチュード(M)7.8の地震が発生しました。ネパール政府は非常事態宣言を発令、国際支援を要請しています。

ネパール内務省によると5月8日現在、国内の死者数は7902人、負傷者数は約1万7千人。大地震の影響で全半壊した建物は約56万戸に上っています。【カトマンズ共同】

## 登山家・野口健さん@エベレスト

一ヶ月半の日程でヒマラヤの6千m峰二つに登る旅をしていた野口さんとシェルパ(※)一行は、峰の間を移動中、4千5百mの斜面で地震に遭いました。雪崩と落石を避けて10分ほど岩陰に隠れ、その後3千8百m地点の村まで下山したそうです。

その後さらに、同行しているシェルパの家のあるクムジュン村まで下り、5月1日からクムジュンを皮切りに周囲の村の家屋倒壊調査(危険な順にA?Dの格付けとそれぞれの数の集計)を開始しました。

「東北の震災の時もそうでしたが、崩壊した家の中に入るのが辛い。そこには生活の香りが残されているので...。外見はそれほど被害を受けていないかのように見えても中に入ったら室内に石が散乱し、穴だらけで、石積みの中のリスクを改めて感じさせられました。(ブログより)」

現在は10日ほどの日程を組み、さらに標高の高い村を回って被害状況を記録しているとのこと。

## モンベル (mont-bell) アウトドア義援隊@カトマンズ

「義援隊」は、阪神淡路大震災で、アウトドア用品ブランド「モンベル」が、関連の企業や団体に呼びかけて結成したボランティア集団です。東日本では、震災直後から約一ヶ月半、社員を山形の救援物資倉庫へ派遣し、集まった物資を避難所やほかのボランティア団体に届ける活動を行いました。「必要なもの」がその時々で変化していくことに柔軟に対応してきた経験は、ネパールでもきつと役に立つことでしょう。

今回は、カトマンズにあるモンベルストアの現地スタッフと連携しながら最適な援助を目指します。

4月27日には一般からの援助金の受付も始まりました。

▼2011年3月21日「東北に黒糖を送ろう!大戦略」しんぶんより  
「私たちの黒糖が被災地に届くまで」



「モンベルアウトドア義援隊」↑この名前に聞き覚えはありませんか?東日本大震災発災当時、西表黒糖を被災地に送るにあたり、実際に避難所を回って物資を届ける役割を担ってくれた、頼もしい野外活動の精鋭たちです。

「すけさきた」とは宮城県登米市あたりの言葉で「ボランティアに来たよ」という意味である



エベレスト山麓にいた野口さん、カトマンズに支店をもっていたモンベルのほかにも、ネパールには平時から支援活動を行っている日本のNGOなどが多く入り、日頃の現地とのつながりを生かした支援が速やかに始まっています。

「IT×災害 情報発信チーム」というサイト (<http://blog.itxsaigai.org>) では、現在ネパールで活動しているそれぞれの団体の支援地域や支援内容を記載した【募金、支援金募集情報】が一覧化されています。「自分の寄付金は子どもたちの支援に使ってほしい」「災害救助犬の活動を応援したい」「〇〇村を支援したい」という目的にあわせて寄付先を選ぶこともできるので、参考してみてください。

資料：日本経済新聞Web刊、中日新聞Web、国際協力NGOセンター、フラットフォーアHP、Mapping the 2015 Nepal Earthquake、weblog、Wikipedia、野口健公式のブログ、モンベルHP「アウトドア義援隊ご協力のお願い」、IT×災害 情報発信チーム